



3 / 29

野田、田野畑、普代の各村の施設9か所を聞き取り調査で訪問しました。野田村では保育所丸ごと流された所もありましたが、子供たちは全員避難して無事だったとのこと。90名もの子供たちを一人も欠けることなく避難させられることが出来たことに日頃の防災意識の高さと防災訓練の重要性を感じさせられました。

グループホームが丸ごと流された(入居者は全員無事)法人もありましたが、入居者は他施設へすでに移動しており人的支援のニーズは薄いとのことでした。(被災者の受け入れをしている他施設でも、職員が無事だったこと受け入れ人数が少ない(数名程度)ことから現状人手は足りている、との回答が多くありました)

そんな中で小さな障害者通所施設が営業中止して20人もの一般非難者を受け入れており「これからどうしようか…」と園長が途方に暮れた様子でした。こういった所への支援の必要性も感じました。

3 / 30

久慈市の施設、保育所等を15件ほど聞き取り調査。

ある保育所の園長先生が「家も舟も流され保育料も払えないからと逆に保育所の子供が減っている。これでは先生たちも雇えない。そちらの支援もお願いしたい」と涙ながらに話されたことが印象に残りました。

また「津波の恐怖でデイサービスに通うことを怖がるお年寄りがいる」ことも聞きました。こういった方への心のケアもこれから大切なのだと感じました。

3 / 31

午前中は久慈市の残った施設を訪問し、盛岡へ。16:30より岩手県社協内でミーティング、他ブロックの報告を聞きました。

他ブロックは被災状況も酷く聞き取り調査も苦労した様子でした。がれきで車がパンクしたり、不審者が多い中ガソリン泥棒扱いされ話もできない地域もあったようです。

また「津波警報を聞いた職員が入居者を放り出して全員逃げ出してしまった施設があった」との報告にはショックを受け考えさせられました。普段から入居者を守ることにについてどうしたらよいか皆で考えていきたいと思います。

今回中心会が担当した久慈ブロックは比較的被害が少なかったとはいえ、どの高齢者施設も定員を数名程度超えて被災したお年寄りを受け入れていました。今は何とか人手をやりくりできているが、さらなる受け入れとなると人的支援ニーズは大きくなると感じました。陸前高田市など被害が大きい所のニーズが大きいのは確実です。

是非、災害地派遣に参加を申し出てもらい皆で支えあっていければ良いと思います。

最後に、災害地派遣に行くにあたり「えびな北のご利用者のことは心配しないで」と送り出して下さった上司、同僚、部下に感謝します。おかげで安心して現地で活動できました。